

まことと会便り

2022/5

長い間続いてきたコロナウイルス感染症拡大防止のための重点措置が広島県においても三月で終わりました。街も少しずつ賑わいを取り戻しつつあるようですが、感染者数はまだまだ多く、手放しで喜ぶわけにはまだいかないようです。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

いろいろな自粛生活が続いておりましたが、少しずつお聴聞する機会も戻ってまいりました。先日お聴聞したご法話の中で、前の連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』を基に「分かり合えないつらさ」のお話がありました。私たちは、自分の人生の中に誤解されたり、分かり合えなかったりといったつらさをたくさん抱えているものです。それは人と人との関わりあって生きていく上で避けては通れないものでしょう。それらのものを抱えながら生きていく中で、一つ一つかたづけしていく歩みができればよいですね、とお勧めいただきました。ともすれば、あきらめてしまったり、見て見ぬふりをしがちな部分ですが、私の残りの人生の中で少しずつ取り組んでいけたら、と思えば少し気持ちにゆとりができてそうです。

行事予定



五月 六日 ヨガの会

五月二十日 ヨガの会

★ヨガの会は毎月第一・第四金曜日開催

五月二十四日 春季永代経法要

五月二十五日 桑門真昭師

七月 八日 まこと会 総会及び夏法座

講師 柳井市 報恩寺
住職 高根淳信

★光圓寺仏教婦人会まこと会総会・夏法座のご案内は六月下旬に発送いたします。

光圓寺 春季永代経法要

五月 二十四日(火)

二十五日(水)

両日とも午後一時半より

講師 桑門真昭師

中区大手町 常念寺

真宗大谷派擬講

五年ぶりにご登壇いただきます。

浄土真宗本願寺派、真宗大谷派の垣根を越えて、仏教全般に渡る広い知識と教養を基にしたご法話が興味深いです。

なお、今年は秋の報恩講・永代経法要も続けてご登壇いただく予定です。

光圓寺では珍しい連続法話になります。いつも以上に大きな構想でお話しいただけるのではないかと期待が膨らみます。皆様どうぞお楽しみに。

【法語カレンダー】 五月のことば 『大乘』より

*失ったものを 数える人あり

与えられたものに 感謝する人あり 豊島学由

「失ったものを数える」ことは、よくあることです。そのほとんどが元に戻ることがないと分かっているながら数えるのですから、結局は愚痴になってしまいます。このような心情の時は今に満足できない時です。たとえ目の前に与えられたものがあつたとしても感謝することができません。普通に考えると「失ったものを数える」より「与えられたものに感謝」できるほうが心豊かな生活になるでしょう。

報恩のために一生を過ごされた親鸞聖人をはじめ念仏を喜ばれた多くの人々についての話を聞き重ねていくうちに、私たちも多くの恩恵の中に生かされていることがわかってきます。自分の体験を通してでは実感できなかったものが恩恵であるともわかります。自分中心の煩惱のためにそうとわからなかったものが、少し方向を変えてみることで恩恵だったとわかることもあります。

恩恵を数える必要はありませんが、恩恵の中に生かされていると気づくことは幸せなことです。それは、たった一人で頑張っていたつもりの人が、自分に向けられてきた多くの支えがあつたことに気づくことでもあります。私たちは恩恵の中に生きています。その気づきひとつひとつが報恩感謝のあゆみとなっていきます。

【コロナ禍でできなかった法事について】 坊守

コロナ禍の生活も四年目に入りました。

最初のころは緊急事態宣言や蔓延防止重点措置などが発令されて、行事や集まりを自粛するよう強く求められましたし、ここまで長期に亘って日常生活に影響を及ぼすとは予想していませんでした。

そのため令和二年から令和三年にかけて年回に当たられた方々の中に「コロナが落ち着くまで延期」された方が少なからずいらっしゃいました。今年の四月に入ってから、そういった方々から延期した法事についてお問い合わせをいただくことが増えています。

浄土真宗において法事は、先に逝かれた方と縁のある者が集い、共に読経や法話のご縁をいただきながら「自分と自分を取り巻く命に思いを寄せる」大切な機会です。本来ご正当の年回で行うことが望ましいのですが、過ぎてしまったらダメというものでもありません。どうぞお気楽にお寺にお問い合わせください。

令和4年 年回

1 周忌	令和3年(2021)
3 回忌	令和2年(2020)
7 回忌	平成28年(2016)
13 回忌	平成22年(2010)
17 回忌	平成18年(2006)
25 回忌	平成10年(1998)
33 回忌	平成2年(1990)
50 回忌	昭和48年(1973)